

## 7 泉区の畜産業

昭和六十二年に泉区のイメージキャラクターとして、豚が選ばれ「トムトム」と名付けられた。翌六十三年の横浜市制百周年を記念して募集されたもので、「TOMTOM」の二つの「M」は、「みなとみらい21」にもかけているということであった。

これは、昔から泉区では養豚が盛んに行われてきたことによるものである。

明治初期、イギリス人のウイリアム・カーチスが戸塚の柏尾でハムを製造したのが、日本での本格的なハム製造の始まりといわれている。

明治二十年（一八八七）には、和泉町で清水桃太郎が鎌倉ハムの製造を始め、その後下飯田町の田丸金次郎が「鎌



テレホンカード「TOMTOM」

倉ハム（スライスハム缶詰）の（P53参照）の製造を始めた。神奈川県統計書によると、田丸金次郎がハム

製造を行っていた昭和十一年当時、神奈川県下のハムの約84%を鎌倉郡内の工場で製造していた。このことから当時、鎌倉郡ではいかにハム製造が盛んであったかがわかる。

### 豚の飼育戸数

郡名	一頭	二頭	三〜四頭	五頭
鎌倉郡	一四四〇戸	四五七戸	一二九戸	八〇戸
高座郡	五二八五戸	一三三八戸	八四七戸	三六一戸

「神奈川県統計書（昭和十一年）」より

ハムの製造に伴い、その原料となる豚の需要が高まり、鎌倉郡をはじめ、周辺の高座郡では養豚が盛んに行われるようになり、やがて「鎌倉ハム」と「高座豚」は地域の産業として脚光を浴びるようになった。

### 農協別農地面積

農協名	田面積(ha)	畑面積(ha)	果樹園(ha)	その他(ha)	合計(ha)
中田	三四・九七	一一六・二四	〇・一〇	〇・一五	一五一・四六
和泉	七五・二三	二七一・七三	〇・五九	二・二九	三四九・八四
飯田	七六・五一	二〇九・七九	一・五三	〇・一九	二八八・〇二
中川・原	一二六・八四	三〇八・七八	四・七一	〇・三七	四四〇・七〇

「戸塚区の農業（昭和三八年）」より

しかし、当時の養豚は「豚の飼育戸数」の表からもわかる





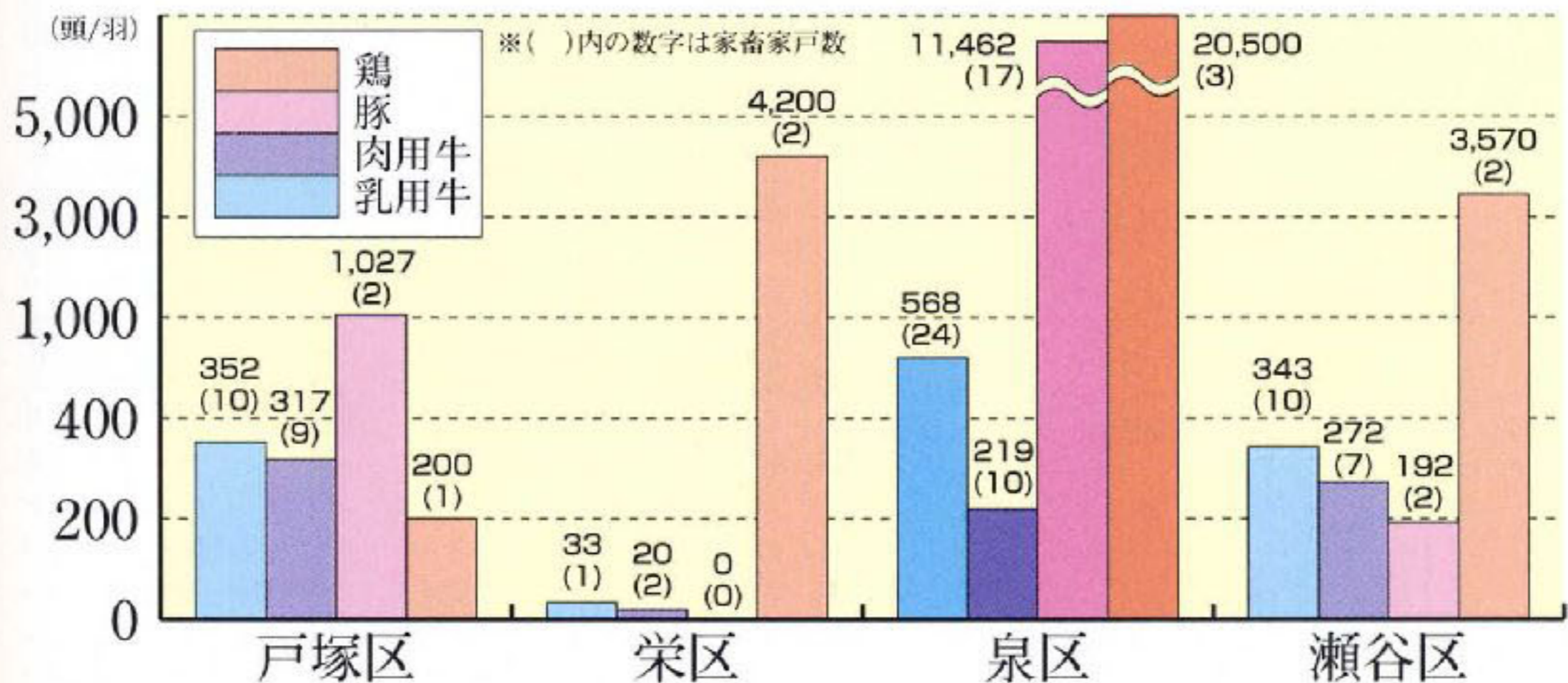
みなみ総合センターの畜霊塔

業化されています。単に、飼育するという時代から、消費者のニーズに即した品質の改良や設備の近代化、規模の拡大に対応していかねばならない時代になったのです。泉区内では、若い後継者の育成と経営の近代化が図られ、年間に三百頭近い豚が横浜市食肉市場に出荷され、「ハマ豚」とか「飯田豚」として高い評価を受けています」とあるように、泉区内は二十数年前までは、横浜市の近郊農業地帯として農業生産高の50%をしめた「そさい類」の生産をはじめ、酪農、米麦の栽培、養豚、養鶏等が行われていた。

しかし、三十年代の後半から四十年にかけて、工場や住宅の進出により、耕地面積の減少、農業をとりまく情勢の

ように、鎌倉郡、高座郡共に一戸当たりの豚の飼育数は一〜二頭が大部分の小規模なものであった。平成元年に、泉区役所が発行した「一二万人の田園交響曲」に「二十数年前までは、区内のどの農家でも数頭の豚を飼育していたものです。しかし、現在ではすっかり専ら、現在ではすっかり専ら、昭和五十四年十月、横浜南農業協同組合は「みなみ総合センター」内に畜霊塔を建立し、毎年秋分の日頃に関係者が集まって畜霊祭を行っている。

変化により養豚、養鶏、乳牛の大規模経営が行われるようになった。特に、養豚は横浜市の約68%、乳牛は約42%を占め、泉区は市内第一位である。



平成六年 泉区政要覧より